



見る・知る・学ぶ 北のみち  
**道路情報館**  
 北海道開発局 札幌開発建設部

国道 230 号札幌市南区豊滝地区に、北海道で初めての道路情報館が平成 13 年 2 月 15 日に誕生した。

この「道路情報館」では、道路を利用する人たちに道路に関する多くの情報を提供するとともに、道路に関する展示物を通して道路事業を広く P R すること、図書、ビデオなど道路に関する資料を公開するなど、多くの道路を利用される人たちの声に耳を傾け、それを道路事業に反映させ、同時にドライバーと道路管理者との交流を図る場所である。

この施設を通して、北海道ならではの道路の特徴、北の道のあれこれを、子供から大人までが楽しく体験的に学べるように展示し、かつ有効に活用されんことを願っての施設でもある。運営に当たっては、広く道路を利用される人たちに、道路の意義、建設の歴史、現状と将来、建設の技術などについて、いつでも誰もが利用し、楽しく学べる施設とすべく充実を図るべきものと考えている。

日本はその科学技術によって、世界の中でも指折りの経済大国となってきた。しかしながら残念なことに、青少年が理工科離れをしていることも事実である。これは「科学技術的興味を開発するための努力が不足している」からでもあろう。こと道路に関しては「青少年たちに道路技術のおもしろさを教え込む最上の場」としたい。楽しみながら、施設を利用することによって、道路技術ひいては土木に関する技術の夢をかきたて「刺激の場」とするのが「道路情報館」である。あくまでも「一般の多くの人たちに、特に将来の北海道を背負う青少年に理解してもらうための施設」である。

理想としては「道を利用する人の知性を刺激し、人間精神を挑発することによって、未来の創造に向かわしめるための、刺激と挑発の場」を願っている。

最近になって展示品に触ったりすることが出来る博

道路情報館の前景



物館が各地に登場してきた。これは英語で「実践の」という意味の「ハンズオン」というものであって、これは 1963 年に米国の「ボストンこどもの博物館」が最初のものという。

これは、実際にやってみることを通じて学ぶ施設とすべきというものである。触ったり体験したりすることで、知らず知らずのうちに興味を深めてもらうことを狙った展示方法である。

博物館もこのような時代の流れとなってきた。子供だけでなく大人も十分に楽しめるようにと、色々と工夫がなされてきている。

ここではこの考え方を採り入れた施設としていて、これが大変好評であり、開館以来 8 箇月余を経た現在、全館の入場者がすでに 23 万人を数えている。

ここの「道路情報館」で、道路に関する自然の構造や先人たちの足跡を学び、将来や未来まで読み取ることのできる『知識の宝庫』施設を有効に活用されんことを願っている。

豊富な記録、資料、図書、映像などにより、道づくりの技術、暮らしと道路などを学び、技術の継承、教育、啓蒙などのほか、技術者たちの情報交流、交歓の場としても、産学官の協力で立派なものとしたものである。

ここには北海道道路史調査会(会長・堂垣内尚弘)が収集した約 4,000 点の書類・資料の外、全道各地の開発建設部からの書籍・資料・ビデオ・パンフレットなど合計約 8,200 点が集められている。これ以外にも、古い写真・地図・開通記念品・計算機・絵葉書などが収集・保管されている。

どうか「愛される道路情報館・道路資料館」のご利用を願っている。



▲▼展示・図書コーナーの利用状況



(文責 三浦 宏 道路情報館長)